



大崎耕土を潤す政宗公ゆかりの農業水路「内川」



豊穣に感謝して奉納される「鬼首神楽」



農作業の節目の楽しみ「もち料理」



豊かな生物多様性が生産者と消費者を結ぶ



居久根が点在し、水田、水路が織りなす大崎耕土の景観(ランドスケープ)



水田に浮かぶ森のように点在する「居久根」

# 大崎耕土の農業を世界農業遺産に認定申請

「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム

## 世界農業遺産とは

世界農業遺産とは、国連食糧農業機関(FAO)が2002年に創設した制度です。社会や環境に適切しながら何世代にもわたって形作られてきた伝統的な農業と農業上の土地利用や景観、農文化、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを認定する仕組みです。

ムでは、用水の確保や栽培技術、排水対策など、農業農村の営みのあらゆる場面で「巧みな水管理」の知恵が活かされています。

また、巧みな水管理は、農家の営みを支え、水田に点在する屋敷林「居久根」とともに、水田の持つ豊かな湿地生態系や農文化も育んでおり、未来に伝えたい、素晴らしい農業システムです。

これら巧みな水管理は、地縁による農家組織「契約講」の持つ相互扶助機能の一部を引き継いだ、土地改良区などの水管理組織によって、現在も調整が続けられています。

稲作でも、水温を巧みに活用した育苗や深水管理、昼間止め水など、複数の冷害対策の知恵を講じて、豊かな実りを得る努力が行われています。

## 大崎地域の農業システム

大崎地域の水田農業は、「やませ」による冷害や洪水、濁水が頻発する厳しい自然環境の中、さまざまな知恵や工夫、数多くの苦労を重ねながら、米づくりを中心とした水田農業を継続し、「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

厳しい自然環境と共生してきた大崎耕土の農業システム

## 農業を支える 巧みな水管理

大崎地域では、中世以降、取水堰や隧道・潜穴、ため池、用排水網などを築き、水田農業に必要な用排水を確保し、水の恵みを行き渡らせることに力が注がれました。

さらに、洪水時の備えとして、湖沼や湿地などの自然遊水地と水田を組み合わせた遊水地を設けることで、他の水田や集落への浸水被害の減災を図ってきました。

## 農業と結びついた 伝統的な農文化

厳しい自然環境下で継承されてきた農家の営みからは、水の恵みをもたらす奥羽山脈の山々を信仰する自然崇拜的な民間信仰、豊穣への祈りや感謝を表すさまざまな農耕儀礼や民俗芸能が生まれ、農作業の疲れを癒やす湯治文化も育まれました。

また、厳しい農作業の節目の楽しみとして、季節ごとの食材と共に食べる「もち料理

理」や酒、味噌、醤油などの発酵食、水田や水路に生息するドジョウやフナを食べるなど、多様で豊かな食文化が生まれています。

## 生物多様性を育む農業

水田の持つ湿地生態系は、多様な生きものの生息環境の保全にも貢献しています。

大崎地域では、害虫の天敵となるクモやカエルなどの生きものや共生し、害虫被害の軽減を図る取り組みが、有機栽培米や環境保全米を栽培する農家を中心に試みられています。

生物多様性を育む水田農業を支えることの大切さは、消

費者と生産者の連携による生きもの調査などの交流を通して浸透しつつあり、産地と消費者が共に支え合う新たな流通の仕組みを構築してきました。

## 豊かな農村景観 (ランドスケープ)

水田の広まりとともに、農家が生活の拠点を山裾から平地に広げる際には、洪水や冬の北西風から家屋敷を守るように取り囲む屋敷林「居久根」を配置しました。居久根は、野菜など身近な食料生産の場としても利用され、水田地域の定住環境を確保してきました。

多様な樹種で構成され、水田の中に浮かぶ森のように点在する居久根は、水田地帯に張り巡らされた水路とともに、多様性のある土地利用と独特な景観(ランドスケープ)を生み出しました。また、多くの動植物が生息できる環境も提供し、大崎耕土の湿地生態系の保全にも貢献しています。

大崎市では、世界農業遺産への認定を契機に、先人から引き継いだ地域の資源(宝)を再認識し、農産物のブランド化や六次産業化、農村景観と農文化の保全、そして担い手となる次世代の育成を進めていきたいと考えています。

☎ 23 2281